

# 12 環境・リサイクル・清掃

---

12-1 資源の出し方

12-2 食品ロス削減に向けた取り組み

12-3 プラスチックごみ削減に向けた取り組み

12-4 地球温暖化防止に向けた家庭での取り組み

12-5 「生物多様性」の認知度

---

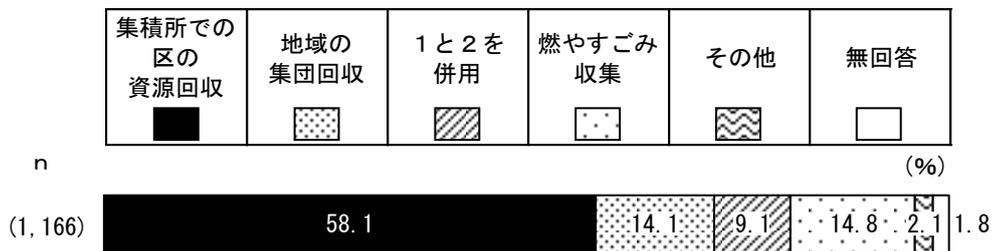


## 12-1 資源の出し方

- 【古紙】、【びん・缶】、【ペットボトル】、【プラスチック製品】では「集積所での区の資源回収」が最も高い
- 【乾電池】では「区施設等の拠点回収」が最も高い
- 【小型家電】では「燃やさないごみ収集」が最も高い
- 【廃食油】では「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」が最も高い

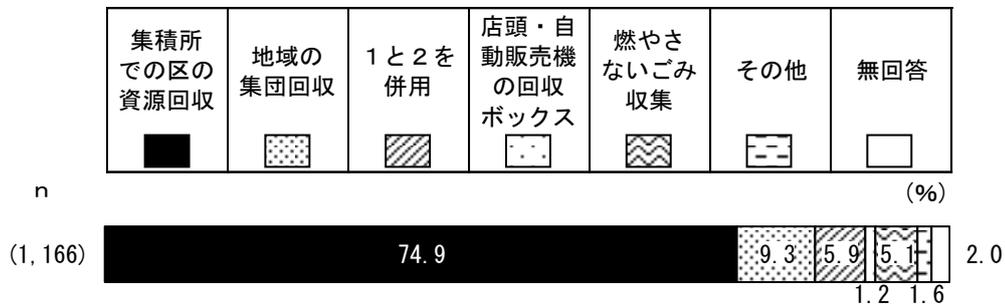
問29 あなたは現在、次の品目の資源をどのように出していますか。品目ごとにあてはまるものを1つ選んでください。

図12-1-1 【古紙】



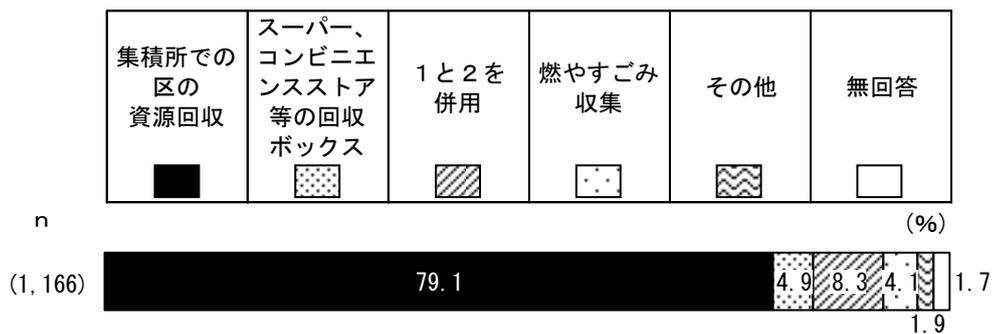
(注)「1と2を併用」＝「集積所での区の資源回収」と「地域の集団回収」を併用

図12-1-2 【びん・缶】



(注)「1と2を併用」＝「集積所での区の資源回収」と「地域の集団回収」を併用

図12-1-3 【ペットボトル】



(注)「1と2を併用」＝「集積所での区の資源回収」と「スーパー、コンビニエンスストア等の回収ボックス」を併用

図12-1-4 【プラスチック製品】

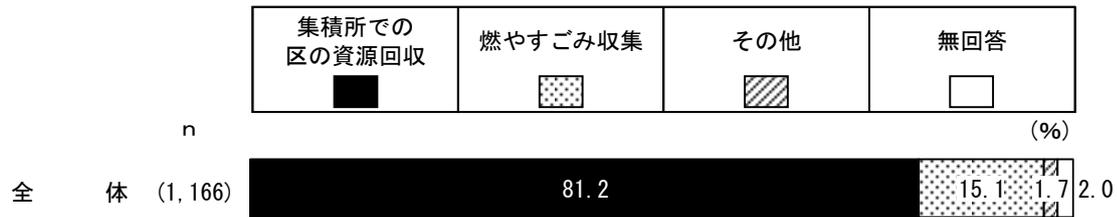


図12-1-5 【乾電池】



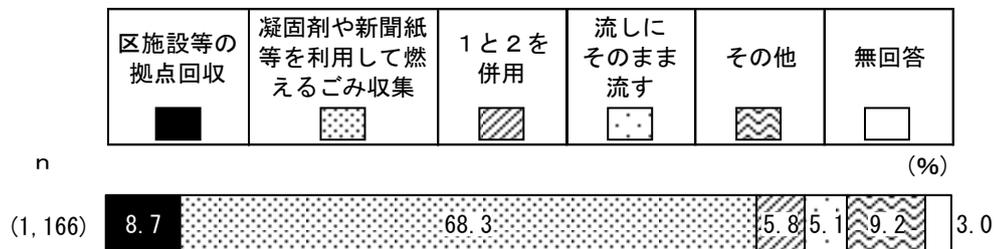
(注) 「1と2を併用」 = 「区施設等の拠点回収」と「家電量販店、スーパー等の回収ボックス」を併用

図12-1-6 【小型家電】



(注) 「1と2を併用」 = 「区施設の回収ボックス」と「家電量販店の回収」を併用

図12-1-7 【廃食油】



(注) 「1と2を併用」 = 「区施設等の拠点回収」と「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」を併用

【古紙】の出し方を聞いたところ、「集積所での区の資源回収」(58.1%)が6割近くで最も高く、次いで「燃やすごみ収集」(14.8%)、「地域の集団回収」(14.1%)となっている。

(図12-1-1)

【びん・缶】の出し方は、「集積所での区の資源回収」(74.9%)が7割台半ばで最も高く、次いで「地域の集団回収」(9.3%)、「1と2を併用」(5.9%)となっている。(図12-1-2)

【ペットボトル】の出し方は、「集積所での区の資源回収」(79.1%)が約8割で最も高く、次いで「1と2を併用」(8.3%)、「スーパー、コンビニエンスストア等の回収ボックス」(4.9%)となっている。(図12-1-3)

【プラスチック製品】の出し方は、「集積所での区の資源回収」(81.2%)が8割を超えて最も高く、次いで「燃やすごみ収集」(15.1%)となっている。(図12-1-4)

【乾電池(筒型の使い切り乾電池)】の出し方は、「区施設等の拠点回収」(40.9%)が約4割で最も高く、次いで「燃やさないごみ収集」(30.0%)、「1と2を併用」(11.3%)となっている。

(図12-1-5)

【小型家電(1辺が30cm以下のもの。携帯電話・デジタルカメラ・電子辞書など)】の出し方は、「燃やさないごみ収集」(31.1%)が3割を超えて最も高く、次いで「区施設の回収ボックス」(26.6%)、「家電量販店の回収」(16.3%)となっている。(図12-1-6)

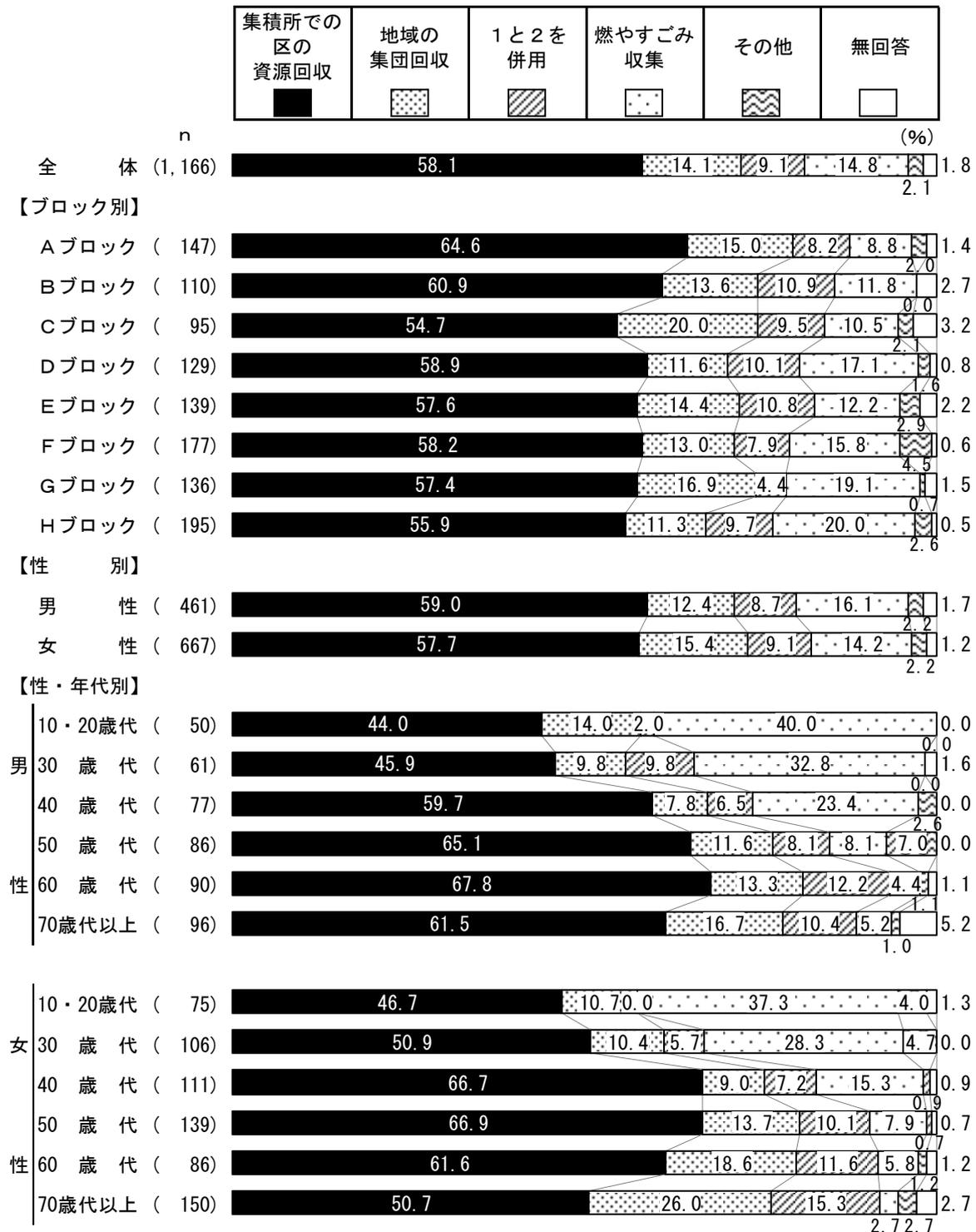
【廃食油】の出し方は、「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」(68.3%)が7割近くで最も高く、次いで「その他」(9.2%)、「区施設等の拠点回収」(8.7%)となっている。

(図12-1-7)

【古紙】では、ブロック別でみると、「地域の集団回収」はCブロックで2割となっている。性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「地域の集団回収」は女性70歳代以上で2割台半ばと高くなっている。「燃やすごみ収集」は男女ともに10・20歳代、30歳代で高くなっている。(図12-1-8)

図12-1-8 ブロック別、性別、性・年代別 資源の出し方【古紙】

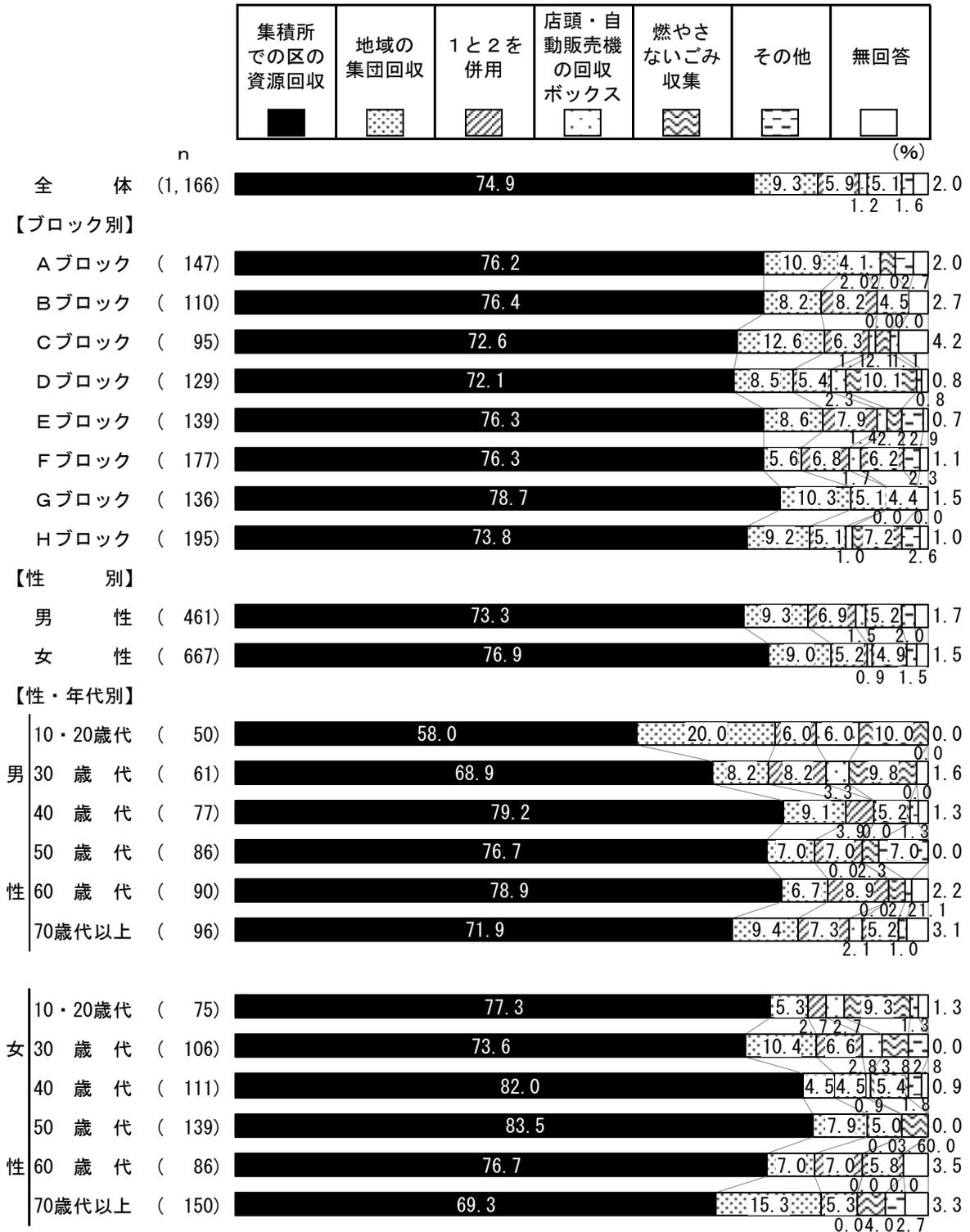


【びん・缶】では、ブロック別で見ると、ブロック間で大きな差はみられない。

性別で見ると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別で見ると、「集積所での区の資源回収」は女性40歳代、50歳代で8割を超えている一方、男性10・20歳代で6割近くと低くなっている。(図12-1-9)

図12-1-9 ブロック別、性別、性・年代別 資源の出し方【びん・缶】



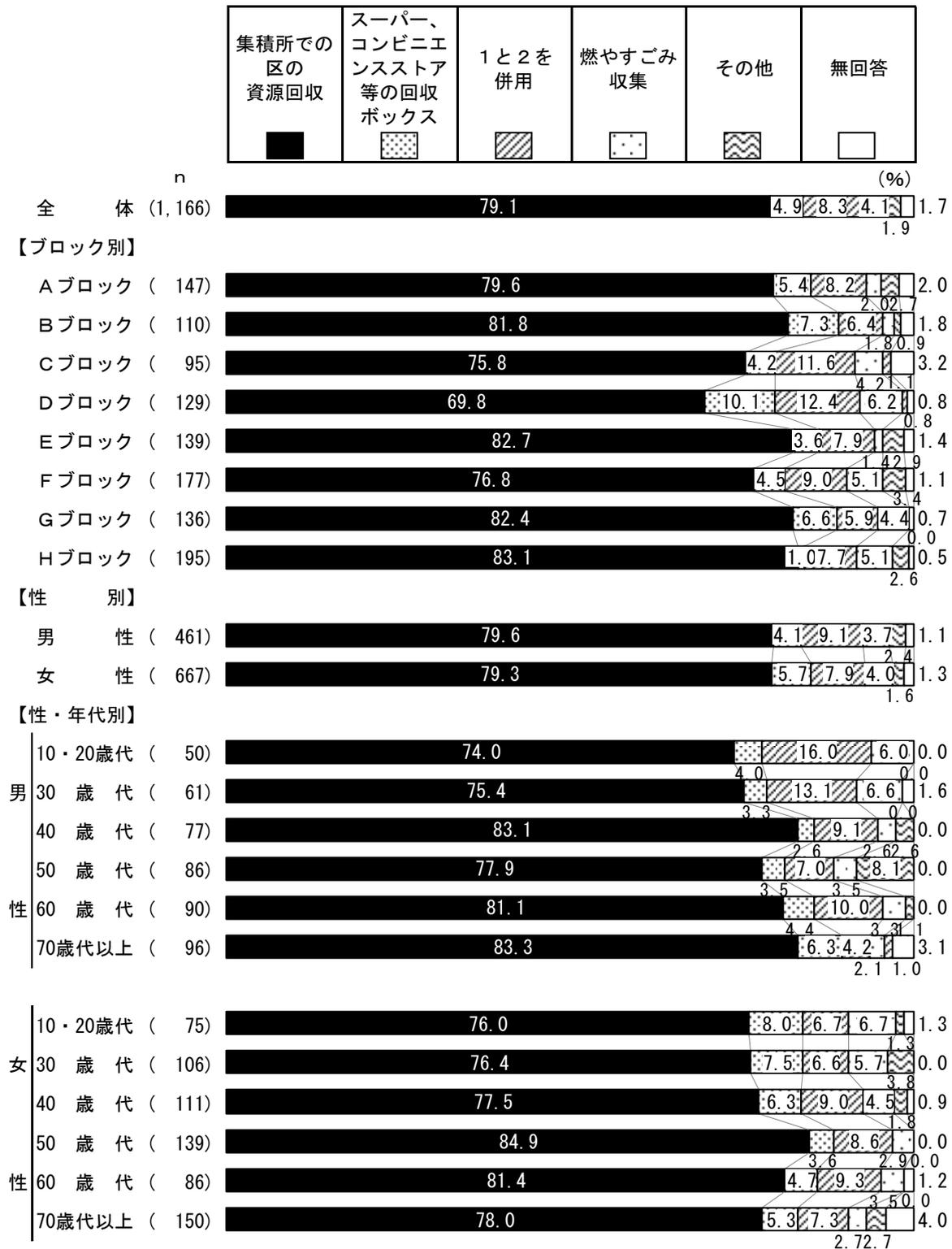
【ペットボトル】では、ブロック別でみると、「スーパー、コンビニエンスストア等の回収ボックス」はDブロックで約1割となっている。

性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「集積所での区の資源回収」は女性50歳代で8割台半ばとなっている。

(図12-1-10)

図12-1-10 ブロック別、性別、性・年代別 資源の出し方【ペットボトル】

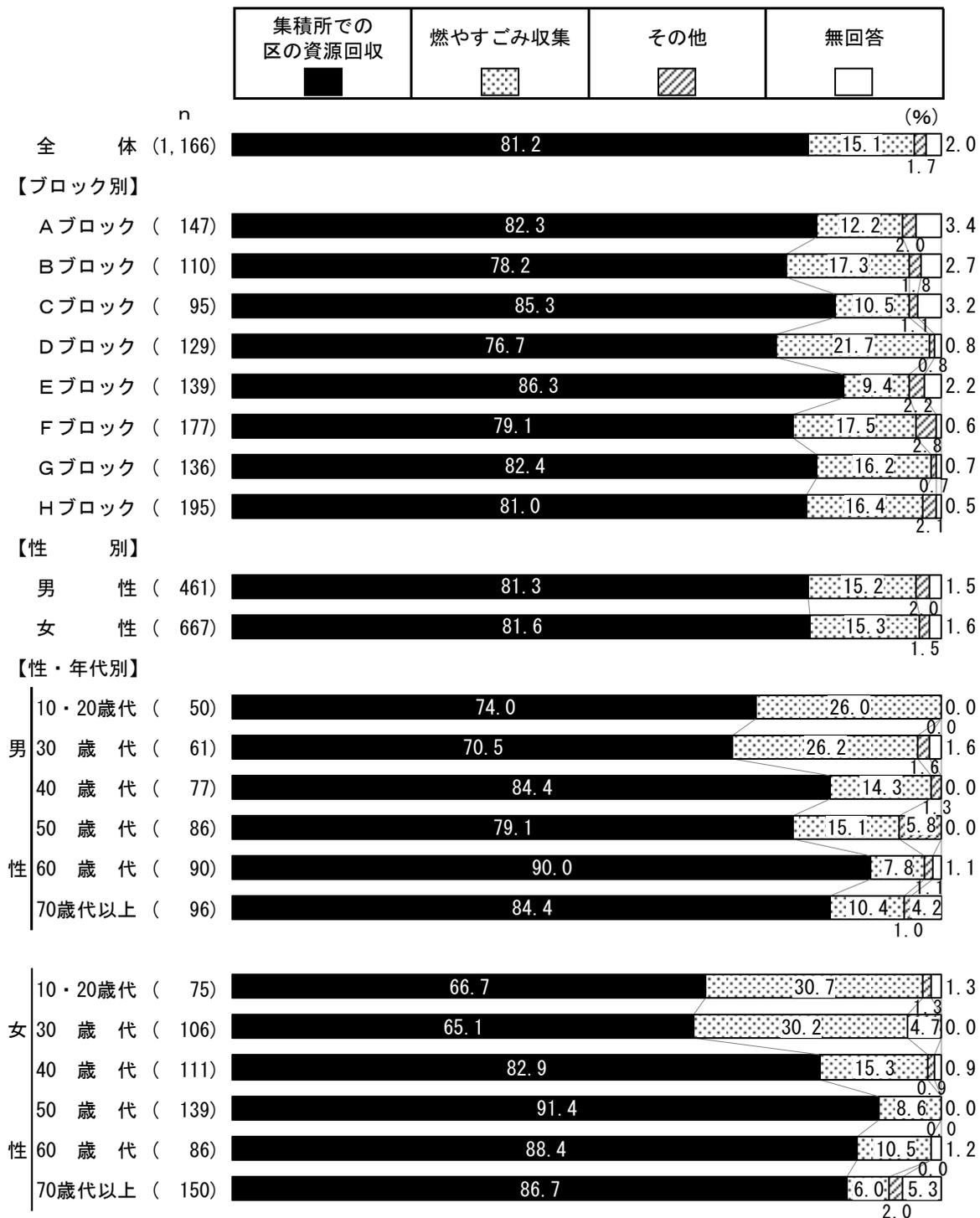


【プラスチック製品】では、ブロック別でみると、「燃やすごみ収集」はDブロックで2割を超えている。

性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「集積所での区の資源回収」は女性50歳代で9割を超えて高くなっている。「燃やすごみ収集」は男性10・20歳代、30歳代で2割台半ば、女性10・20歳代、30歳代で約3割と高くなっている。(図12-1-11)

図12-1-11 ブロック別、性別、性・年代別 資源の出し方【プラスチック製品】

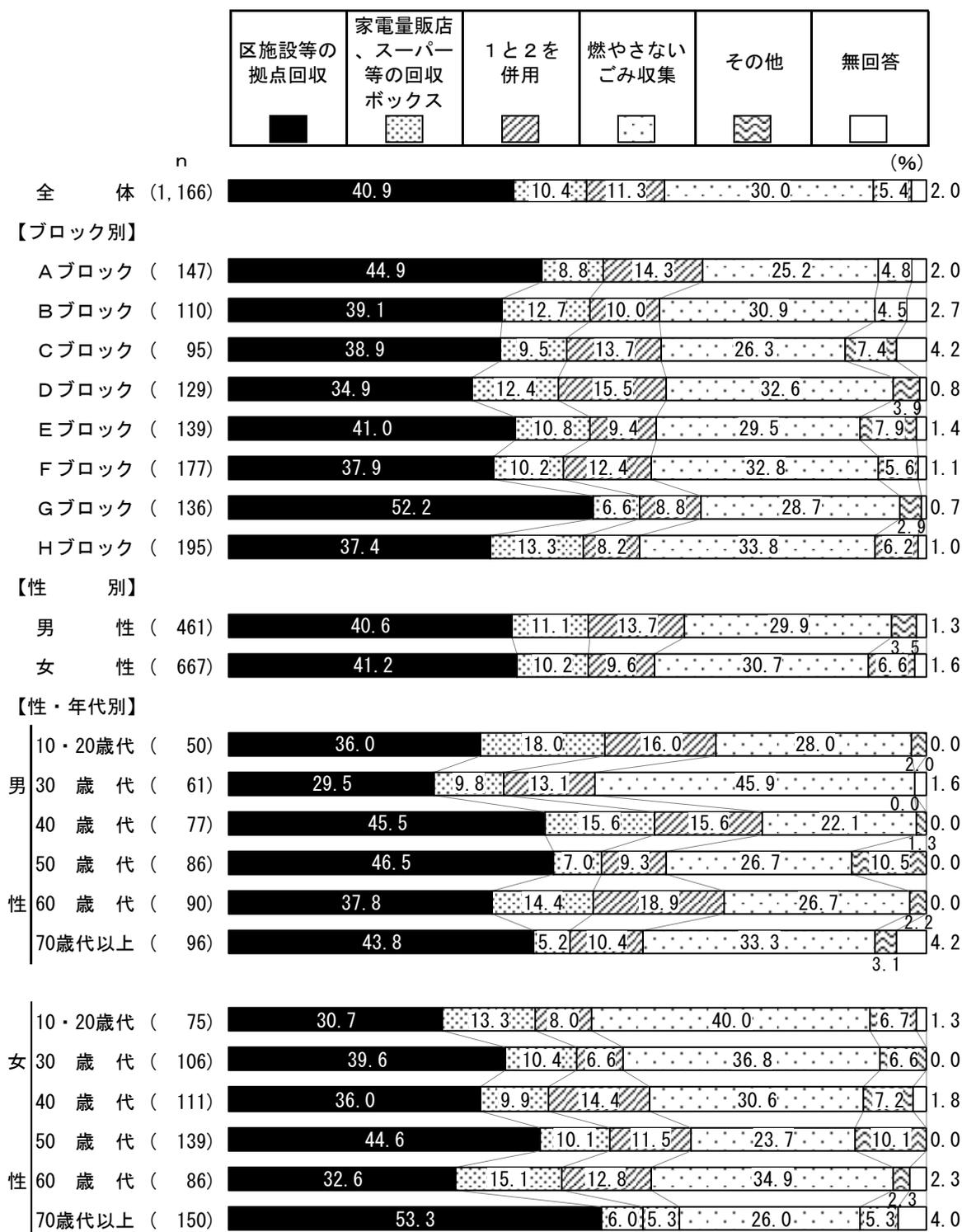


【乾電池】では、ブロック別で見ると、「区施設等の拠点回収」はGブロックで5割を超えて高くなっている。

性別で見ると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別で見ると、「区施設等の拠点回収」は女性70歳代以上で5割を超えて高くなっている。「燃やさないごみ収集」は男性30歳代で4割台半ばと高くなっている。(図12-1-12)

図12-1-12 ブロック別、性別、性・年代別 資源の出し方【乾電池】

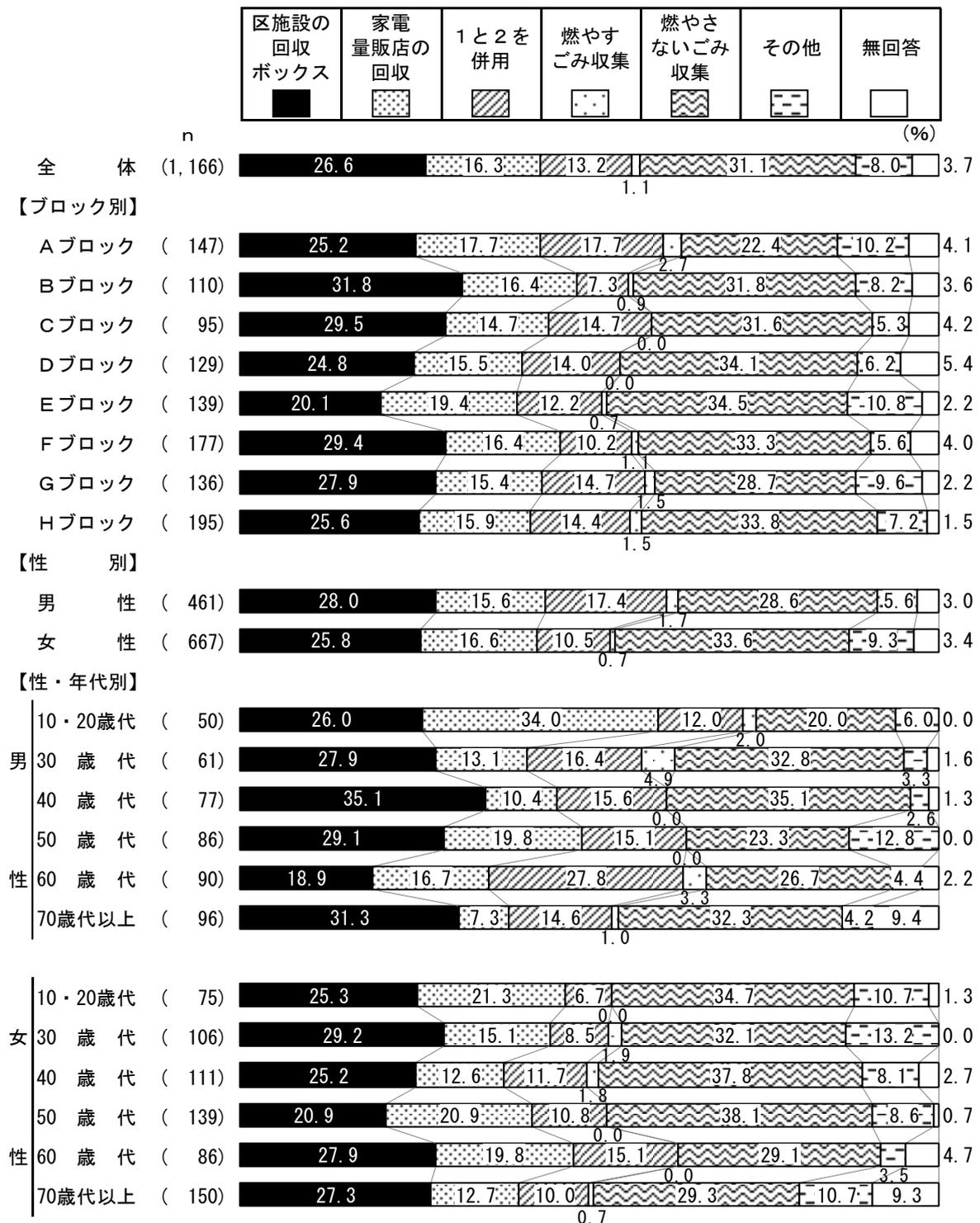


【小型家電】では、ブロック別でみると、「区施設の回収ボックス」はBブロックで3割を超えている。

性別でみると、「1と2を併用」は男性が女性より6.9ポイント高くなっている。一方、「燃やさないごみ収集」は女性が男性より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「家電量販店の回収」は男性10・20歳代で3割台半ばと高くなっている。「1と2を併用」は男性60歳代で3割近くと高くなっている。(図12-1-13)

図12-1-13 ブロック別、性別、性・年代別 資源の出し方【小型家電】



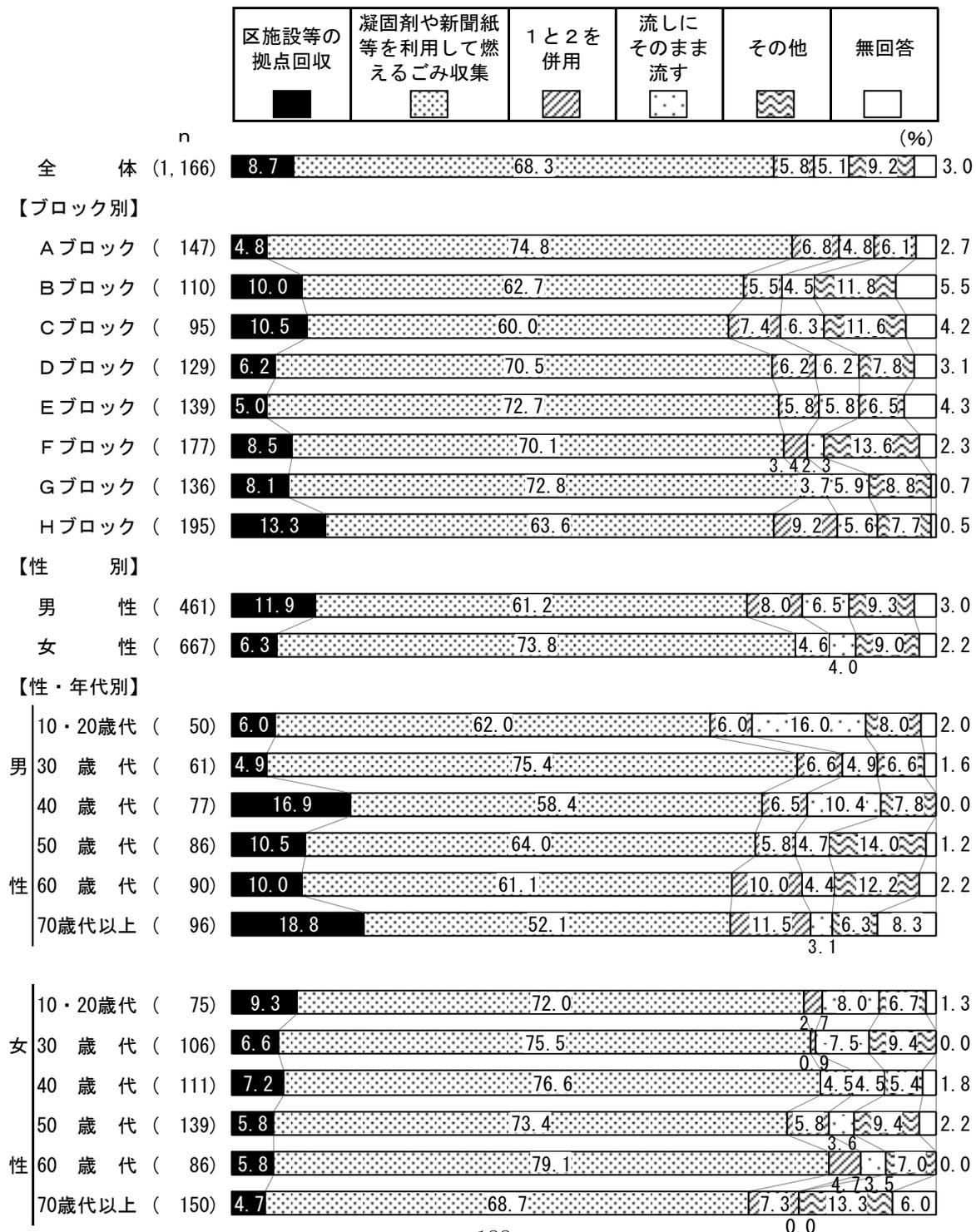
【廃食油】では、ブロック別で見ると、「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」はAブロックで7割台半ばとなっている。

性別で見ると、「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」は女性が男性より12.6ポイント高くなっている。一方、「区施設等の拠点回収」は男性が女性より5.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「区施設等の拠点回収」は男性70歳代以上で2割近くと高くなっている。「凝固剤や新聞紙等を利用して燃えるごみ収集」は女性60歳代で約8割と高くなっている。

(図12-1-14)

図12-1-14 ブロック別、性別、性・年代別 資源の出し方【廃食油】

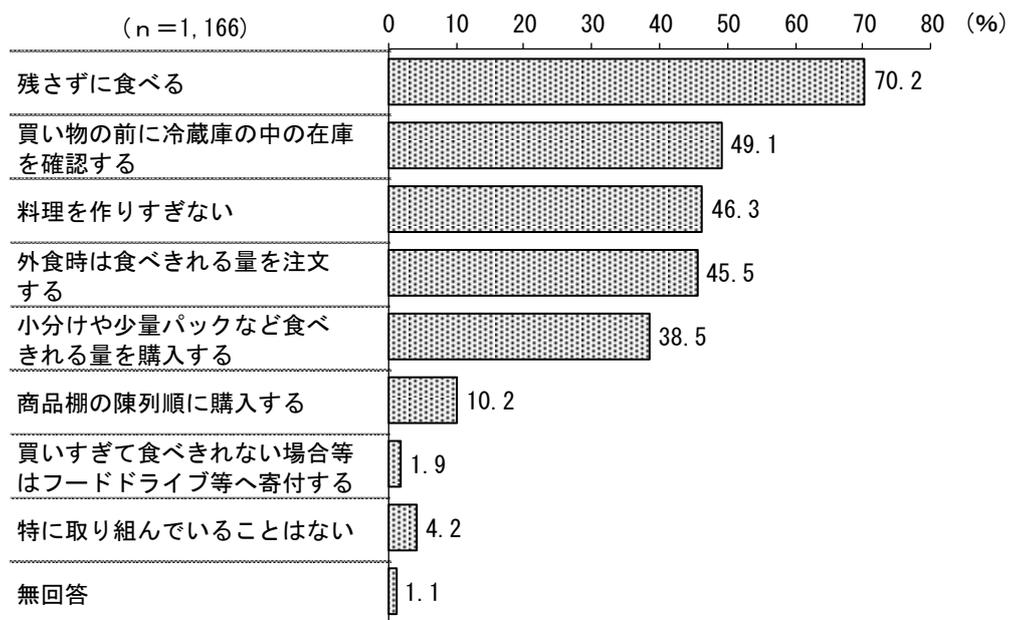


## 12-2 食品ロス削減に向けた取り組み

- 「残さずに食べる」が約7割

問 30 あなたは、食品ロスを減らすために、どのようなことに取り組んでいますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

図12-2-1

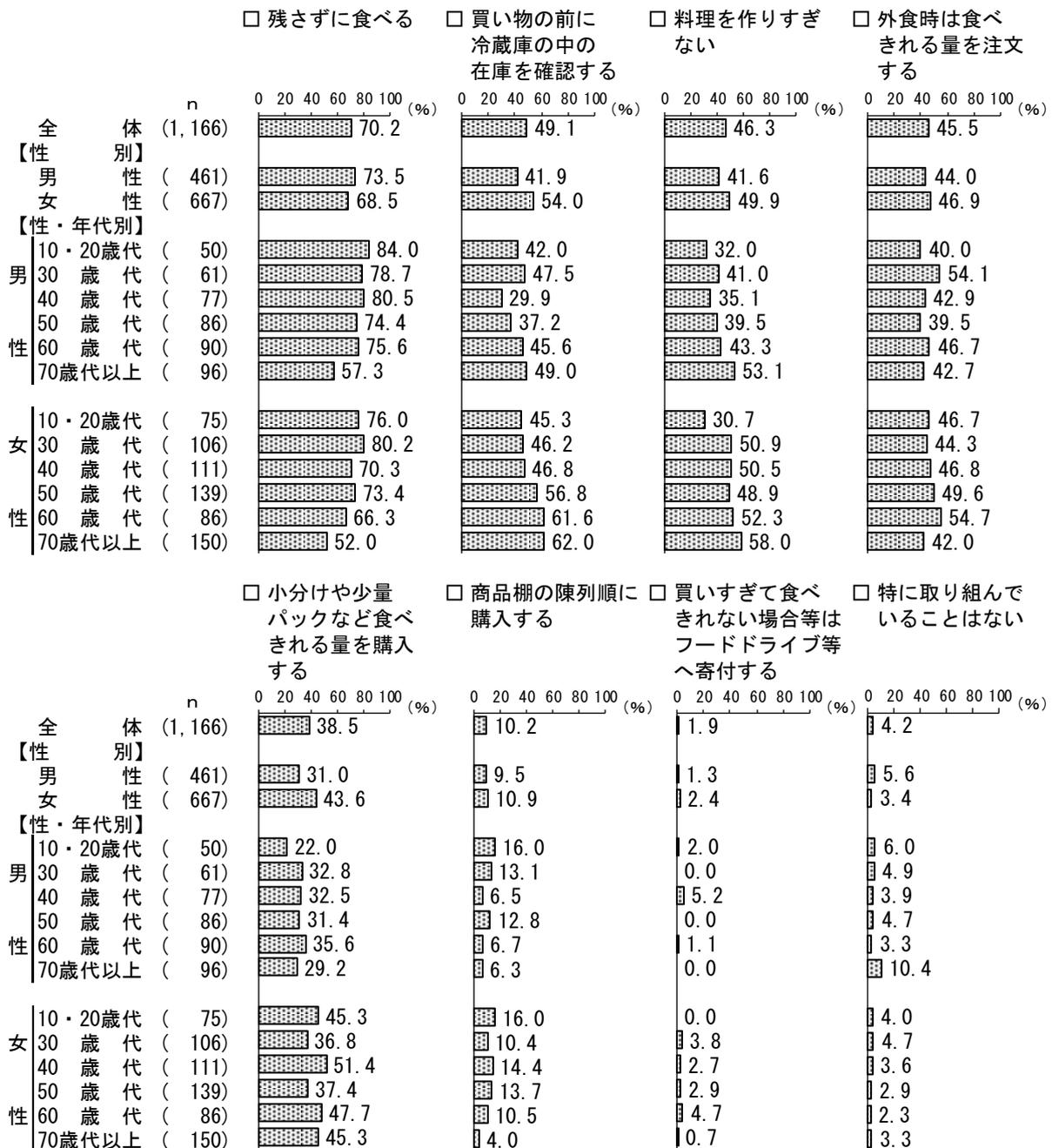


食品ロスを減らすために取り組んでいることについて聞いたところ、「残さずに食べる」(70.2%)が約7割で最も高く、次いで「買い物の前に冷蔵庫の中の在庫を確認する」(49.1%)、「料理を作りすぎない」(46.3%)となっている。(図12-2-1)

性別でみると、「小分けや少量パックなど食べきれる量を購入する」は女性が男性より12.6ポイント、「買い物の前に冷蔵庫の中の在庫を確認する」は女性が男性より12.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「残さずに食べる」は男性10・20歳代、40歳代、女性30歳代で8割台と高くなっている。「買い物の前に冷蔵庫の中の在庫を確認する」は女性60歳代、70歳代以上で6割を超えて高くなっている。「小分けや少量パックなど食べきれる量を購入する」は女性40歳代で5割を超えて高くなっている。(図12-2-2)

図12-2-2 性別、性・年代別 食品ロス削減に向けた取り組み

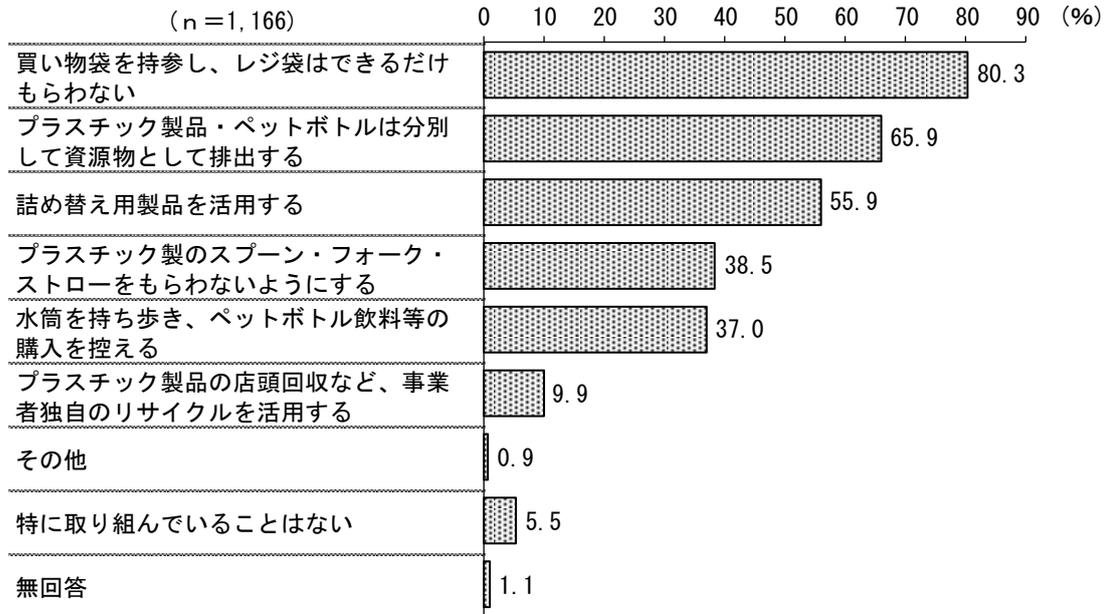


### 12-3 プラスチックごみ削減に向けた取り組み

- 「買い物袋を持参し、レジ袋はできるだけもらわない」が約8割

問 31 あなたは、プラスチックごみを減らすために、どのようなことに取り組んでいますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

図12-3-1

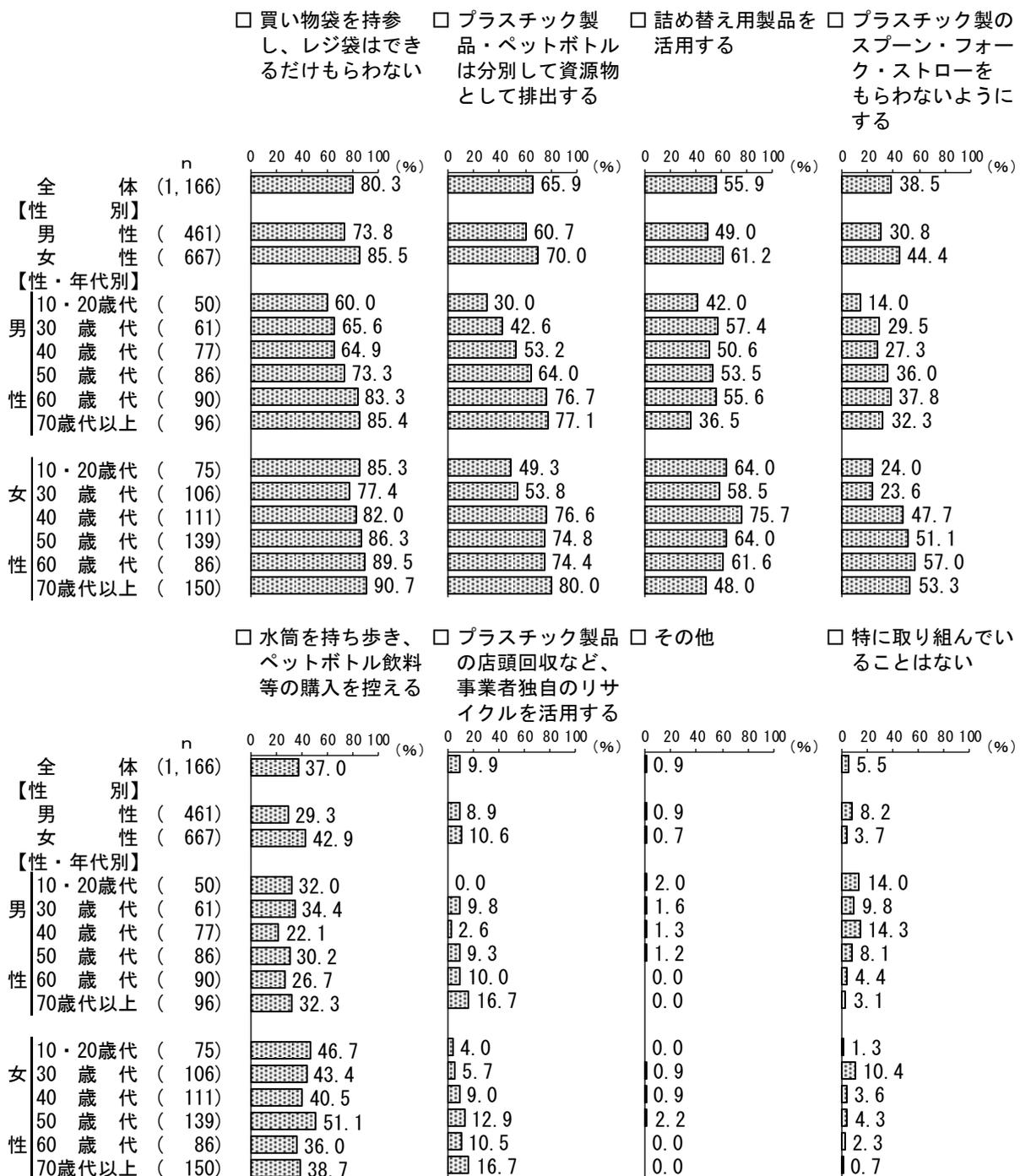


プラスチックごみを減らすための取り組みについて聞いたところ、「買い物袋を持参し、レジ袋はできるだけもらわない」(80.3%)が約8割と最も高く、次いで「プラスチック製品・ペットボトルは分別して資源物として排出する」(65.9%)、「詰め替え用製品を活用する」(55.9%)となっている。(図12-3-1)

性別でみると、6項目で女性が男性より高くなっており、特に「プラスチック製のスプーン・フォーク・ストローをもらわないようにする」、「水筒を持ち歩き、ペットボトル飲料等の購入を控える」でそれぞれ13.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「買い物袋を持参し、レジ袋はできるだけもらわない」は女性70歳代以上で約9割と高くなっている。「詰め替え用製品を活用する」は女性40歳代で7割台半ばと高くなっている。「プラスチック製のスプーン・フォーク・ストローをもらわないようにする」は女性50歳代以上の年代で5割台と高くなっている。(図12-3-2)

図12-3-2 性別、性・年代別 プラスチックごみ削減に向けた取り組み



## 12-4 地球温暖化防止に向けた家庭での取り組み

- 【現在取り組んでいること】では「シャワーは流しっぱなしにしないようにする」が約6割、【今後新たに取り組みたいと思うこと】では「エアコンフィルターを月2回程度清掃する」が3割を超える

問32 地球温暖化防止のための取り組みについて、あなたが、(1) 現在取り組んでいることと、(2) 今後新たに取り組みたいと思うことについて、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

図12-4-1 【現在取り組んでいること】

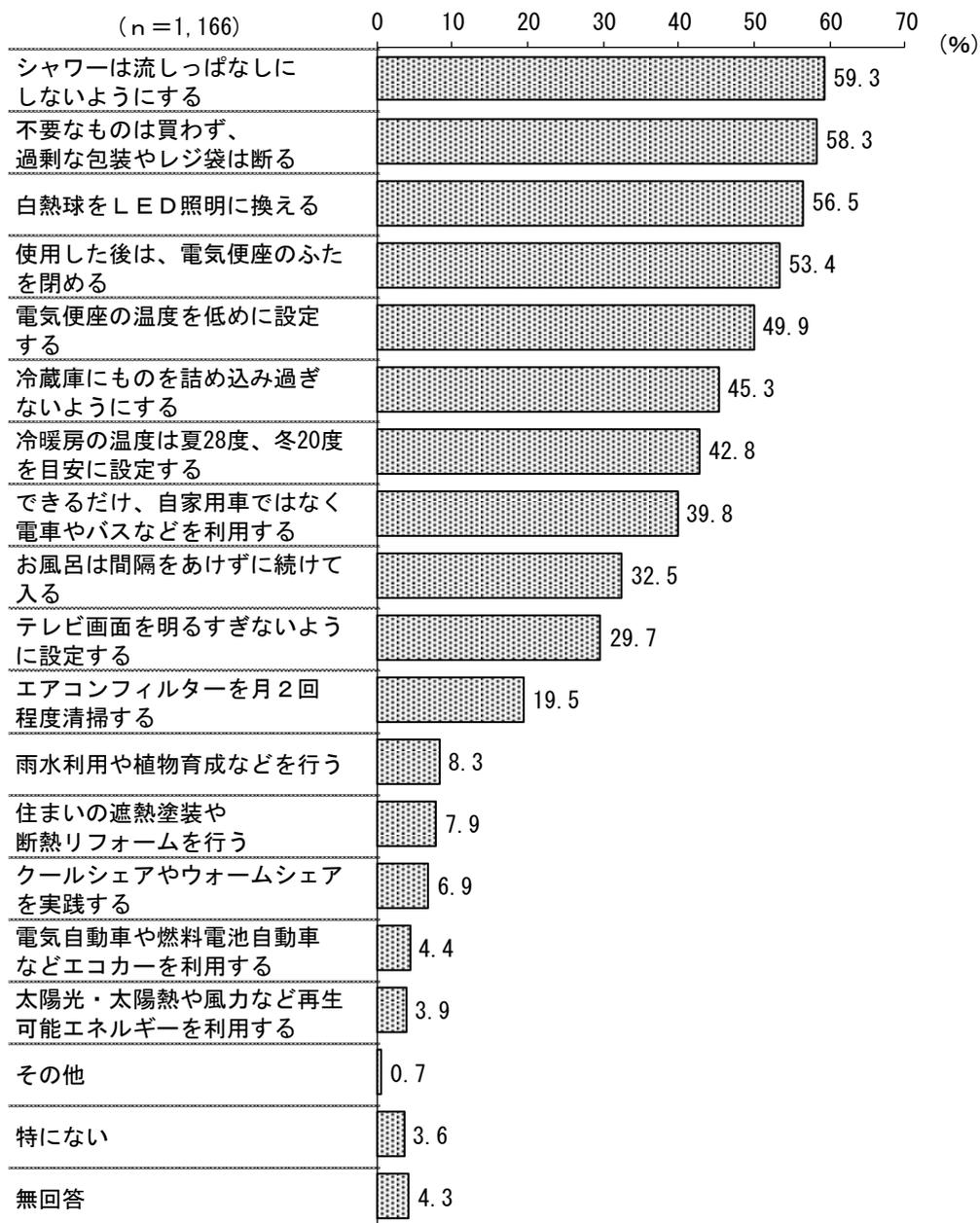
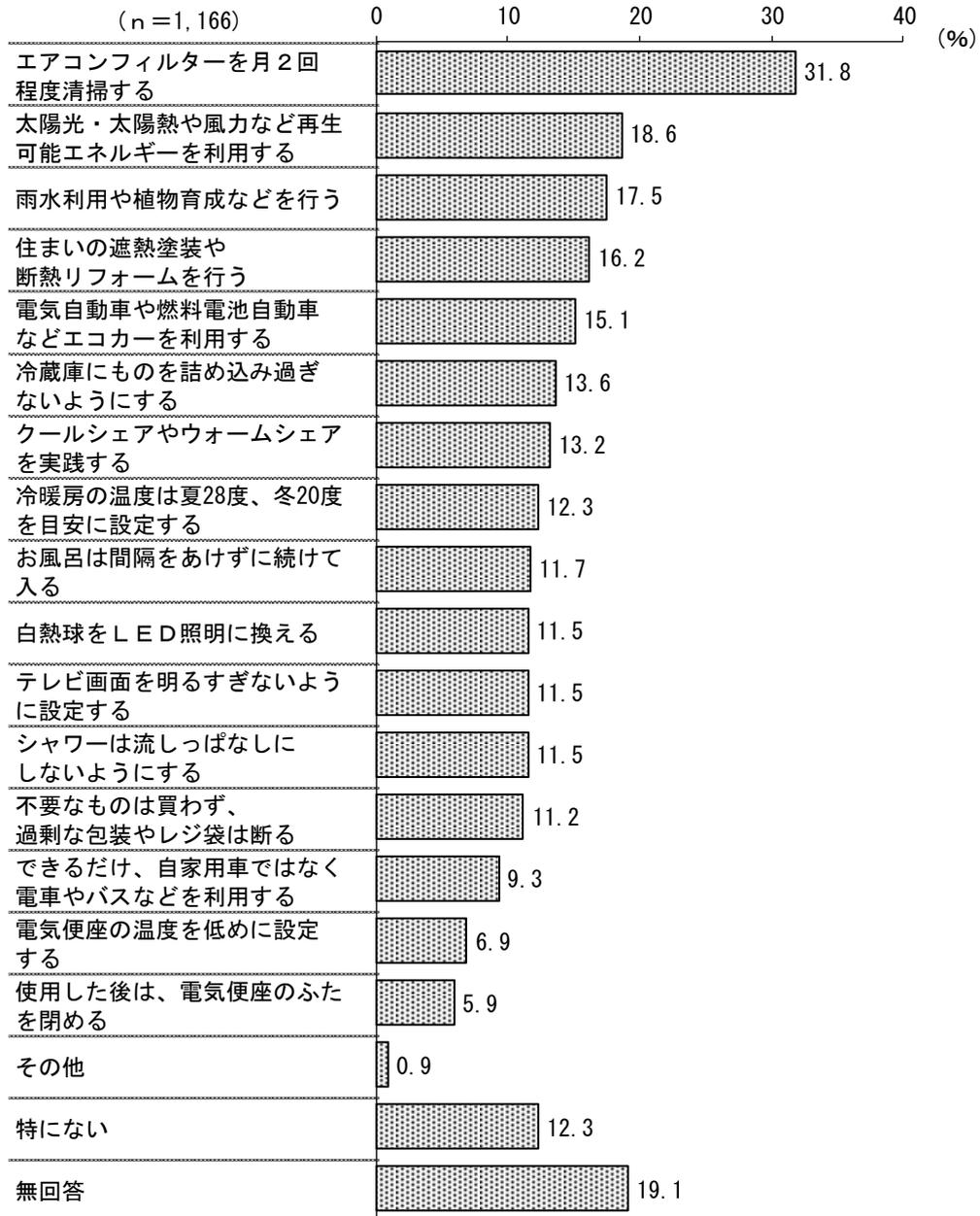


図12-4-2 【今後新たに取り組みたいと思うこと】



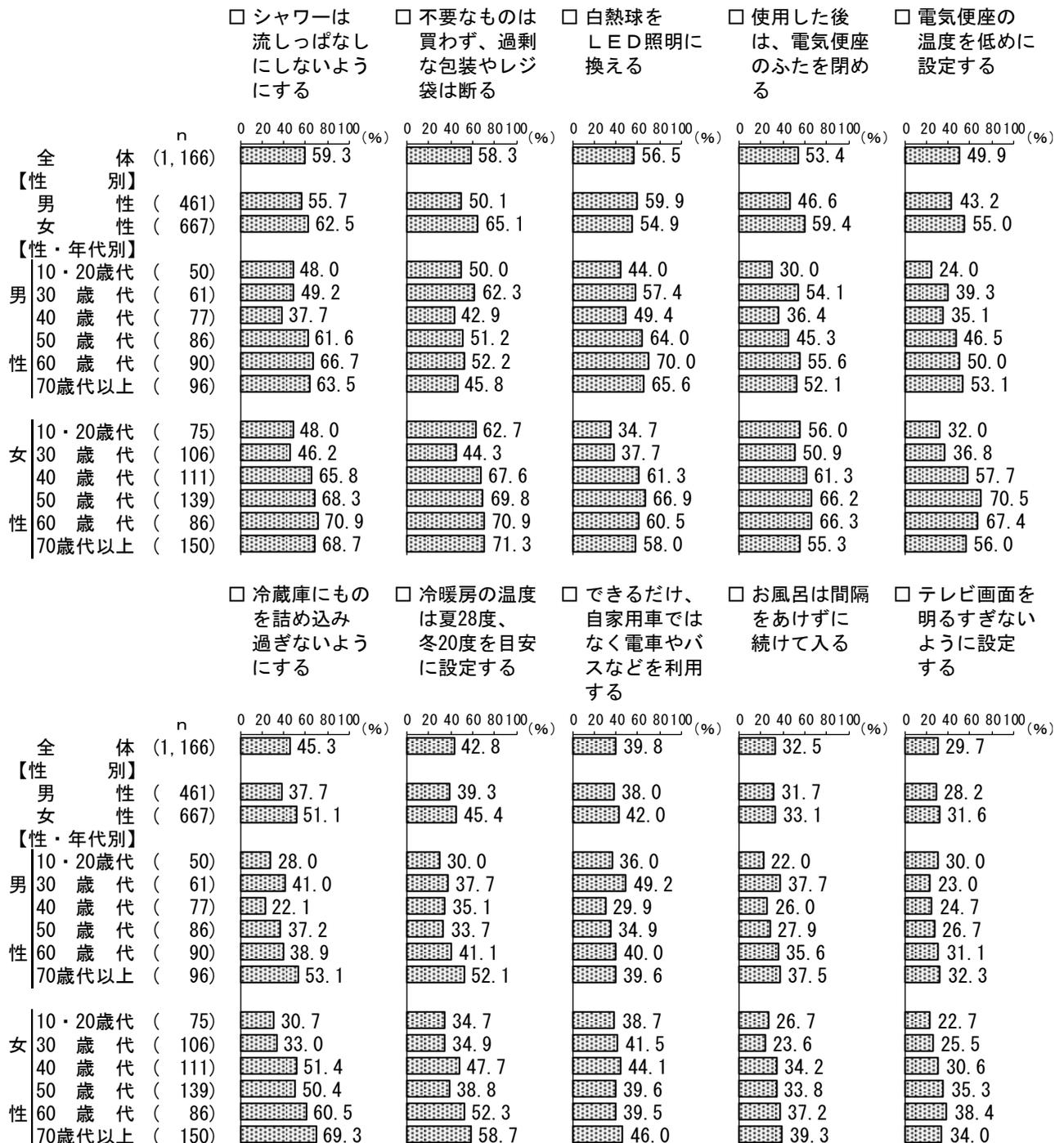
地球温暖化防止のための取り組みについて聞いたところ、【現在取り組んでいること】は、「シャワーは流しっぱなしにしないようにする」(59.3%)が約6割で最も高く、次いで「不要なものは買わず、過剰な包装やレジ袋は断る」(58.3%)、「白熱球をLED照明に換える」(56.5%)となっている。(図12-4-1)

【今後新たに取り組みたいと思うこと】は、「エアコンフィルターを月2回程度清掃する」(31.8%)が3割を超えて最も高く、次いで「太陽光・太陽熱や風力など再生可能エネルギーを利用する」(18.6%)、「雨水利用や植物育成などを行う」(17.5%)となっている。(図12-4-2)

【現在取り組んでいること】では、性別で見ると、上位10項目のうち9項目で女性が男性より高くなっており、特に「不要なものは買わず、過剰な包装やレジ袋は断る」は15.0ポイント、「冷蔵庫にものを詰め込み過ぎないようにする」は13.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別で見ると、「電気便座の温度を低めに設定する」は女性50歳代で約7割と高くなっている。「冷蔵庫にものを詰め込み過ぎないようにする」は女性70歳代以上で約7割と高くなっている。(図12-4-3)

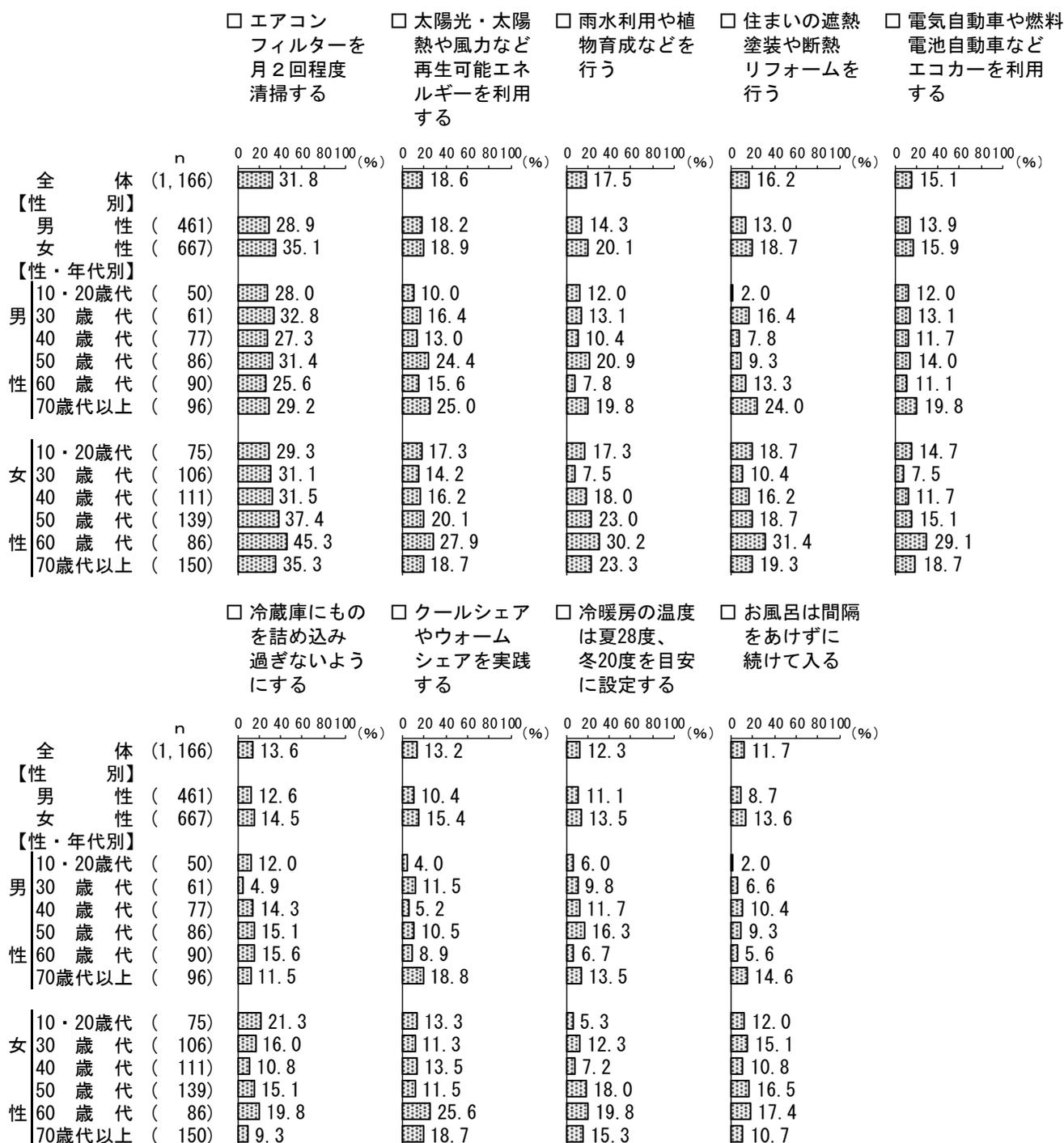
図12-4-3 性別、性・年代別 地球温暖化防止に向けた家庭での取り組み  
【現在取り組んでいること】(上位10項目)



【今後新たに取り組みたいと思うこと】では、性別で見ると、上位9項目で女性が男性より高くなっており、「エアコンフィルターを月2回程度清掃する」は6.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「エアコンフィルターを月2回程度清掃する」は女性60歳代で4割台半ばと高くなっている。「住まいの遮熱塗装や断熱リフォームを行う」は女性60歳代で3割を超えて高くなっている。「電気自動車や燃料電池自動車などエコカーを利用する」は女性60歳代で約3割と高くなっている。(図12-4-4)

図12-4-4 性別、性・年代別 地球温暖化防止に向けた家庭での取り組み  
【今後新たに取り組みたいと思うこと】(上位9項目)

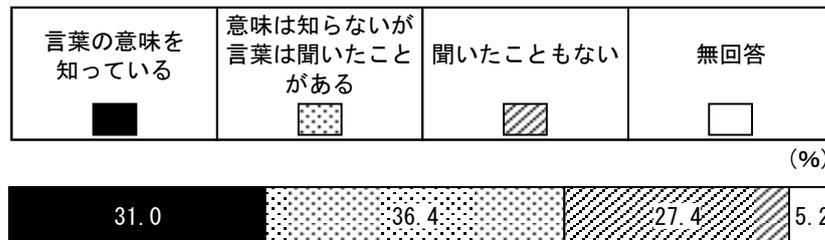


## 12-5 「生物多様性」の認知度

- 「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が3割台半ば

問33 「生物多様性」という言葉をご存じですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

図12-5-1



「生物多様性」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」(31.0%)は3割を超え、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」(36.4%)は3割台半ばとなっている。一方、「聞いたこともない」(27.4%)は3割近くとなっている。(図12-5-1)

性別でみると、「言葉の意味を知っている」は男性が女性より18.1ポイント高くなっている。一方、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」は女性が男性より9.8ポイント高くなっている。性・年代別でみると、「言葉の意味を知っている」は男性60歳代以下の年代、女性40歳代で4割以上と高くなっている。「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」は女性10・20歳代、60歳代で5割台と高くなっている。(図12-5-2)

図12-5-2 性別、性・年代別 「生物多様性」の認知度

